

やるごと

主な内容

- P1…東北関東大震災チャリティーバザー
- P2…たんぽぽハウス活動報告1月~3月
- P3…たんぽぽハウス活動報告1月~3月
- P4…義援金贈呈式・たんぽぽな風景その他

e-mail:tanpopo-happy3232@opal.plala.or.jp

東北関東大震災チャリティーバザー in 萌の里



3月27日(日)、山西小学校6年生有志17名と、たんぽぽハウスメンバーが萌の里にて東北関東大震災チャリティーバザーを行いました。数日前にたんぽぽハウスに遊びに来ていた小学生たちが、今回の地震で被災された方々のために自分たちで何か出来ないかと相談を受け、たんぽぽハウスで作った自然栽培のさつまいもを使ってお菓子を作り、販売した売上金を義援金として送ろうということになりました。3月26日、午前9時、たんぽぽハウスに有志が集まった小学生は17人、たんぽぽハウスメンバーと隣人の外国人英語指導助手2人の総勢28人で準備に取り掛かりました。今回販売するのは、ミルクポテト(潰したさつまいもに、生クリーム、砂糖を混ぜ、春巻きの皮で包んで油で揚げたもの)、スイートポテト、芋天、カレーの4種類。その下ごしらえと、集まったメンバー28人分の昼食作りに分かれて、慣れない手つきながらも一生懸命任された仕事をやっていました。27日の当日は全員が、たんぽぽハウスに8時半に集合し、備品の仕分けやトラックへの積み込み作業を手伝ってくれました。情報を聞いた布田のあさ工房さんからも役に立ててほしいと器の提供があり、たんぽぽメンバーと小学生たちは、ミルクポテトや芋天を油で揚げたり、器を販売したり、義援金を募ったりと、夕方まで大声を張り上げて頑張っていました。売上金と募金の合計は170743円が集まり、全額、西原村社会福祉協議会を通して日本赤十字社に送られ、震災に遭われた方々の復興のために使われます。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

たんぽぽハウス活動報告1月～3月

山西小で餅つき



1月21日(金)、山西小学校4年生の餅つき大会に参加しました。今年で3回目の参加となります。たんぽぽメンバーは、4年生と一緒に餅をついたり、餅を丸めたり、楽しい時間を過ごしました。山西小学校の4年生とは、昨年の夏に、たんぽぽの草取りのお手伝いに来てもらっていて皆顔なじみになっていました。皆から、それぞれに声をかけられ、一緒に大きな餅をちぎっては丸めていました。出来立てのお餅を早速黄粉餅にして頬張り、とっても美味しく頂きました。

冬の風物詩 冬あかり

2月5日、6日(土、日)の両日、萌の里にて行われた冬あかりに参加しました。2月の一番寒い時期に行われるこのお祭りは、冷たく張りつめた空気と暗闇に浮かぶ2600本の灯籠の火の揺らめきが幻想的で、西原村の冬の風物詩となっています。今年は、ステージを萌の里駐車場に移し、道を挟んだ馬頭山の灯籠が暗闇に生える演出にするという事で、たんぽぽメンバーも早目に現地入りし、準備のお手伝いをしました。例年になく温かかった今年のお祭りは、気候のせいもあり、沢山のお客さんが見えになりました。たんぽぽハウスのお好み焼きと芋天も大盛況で2日連続の完売御礼となりました。



山西小との交流①



2月17日(木)、山西小学校の6年生54人が、雨の降る中、マイクロバスでたんぽぽハウス前の役場駐車場に到着しました。6年生と親睦を深めるこの交流会は毎年の恒例行事となっています。今年は、村民体育館もお借りして、竹トンボ作り、お手玉作りと、たんぽぽハウス内でピザ作り、アルミ缶潰しの4つに分かれて、ものづくりを通しての交流会となりました。竹トンボ作りやお手玉作りでは、慣れない小刀やお裁縫に悪戦苦闘。ピザ作りでは、各班に分かれて、独創的なピザが出来上がっていました。2時間という限られた時間の中でどこも大変盛り上がり、最後は、出来たピザをみんなで食べて、またの再会を約束しました。

ピザ作り教室

2月18日(金)、前日の交流会で余った材料を使って、たんぽぽメンバーだけのピザ教室を開きました。ピザの生地を小麦粉から計り、イースト・蜂蜜・塩・オリブオイル・ぬるま湯を入れ、自分の分をそれぞれ手でこねていきました。発酵を待っている間に、ソース作り。ホールトマトを潰し、塩・オリブオイル・トマトケチャップ・乾燥バジル(少々)を加え、平たい円盤状に伸ばした生地に手作りソースを塗り、溶けるチーズを振りかけた後、思い思いに具材をトッピング。300度のオーブンで10分ほど焼きあげたら、最後にオリブオイルを回しかけ、パセリを散らして出来上がり！みんな個性豊かなピザが出来上がり大喜びで自宅に持ち帰りました。



小学生と落書き落とし



2月19日(土)、山西小学校の6年生7人が、たんぽぽハウスを訪れ作業のお手伝いをしてくれました。仲間たちと一緒に、昼食のカレーを食べながら午後の予定を聞くと、名ヶ迫(地名)の看板の落書きを消しに行くとのことでした。その言葉に感激した私達は、作業を早めに終わらせて、小学生達の落書き消しに合流することにしました。そこには、地区名が書かれた看板に油性のスプレー缶で落書きがしてあり、それを雑巾で必死に消している小学生の姿がありました。そこで急遽ペンキで上塗りすることにし、茶色と白のペンキで落書きが目立たないように塗って行きました。正義感と行動力のある後輩たちの姿に元氣と勇気をもたらした一日でした。

ホームレス支援に支援物資



2月24日(木)、熊本市にあるホームレス支援センターに支援物資を届けました。2008年のリーマン破綻から始まった世界的大恐慌は日本へも波及し、末端の生活弱者を直撃しました。倒産や派遣切りなどで職や住居を失った人たちが急増し、いまだそこから抜け出せない人たちが大勢いらっしゃいます。現在、熊本市には200人のホームレスの方が居られ、公園、橋の下、車などで生活されておられます。そんな方々の救済活動されておられるボランティア団体NPO法人熊本支援の会に今回、お米60k、人参10k、玉葱10k、ジャガイモ20k、味海苔などを届けられました。熊本支援の会では、寄付や支援物資を受け付けています。ご協力頂ける方は、096-3385-6299までお願い致します。

のぎく祭り

2月27日(日)、地域福祉センターのぎく荘において、第15回のぎく祭りが執り行われました。天気予報では、50%の降水確率でしたが、朝から空は晴れ渡り、絶好のお祭り日和となりました。施設内では、アトラクションに夢運太鼓や手話コーラス、デイサービス利用者による恒例の演芸大会などで盛り上がる中、外では、人気の食コーナーとして様々なボランティア団体がお店を出していただきました。たんぼぼハウスとしては今回で6回目の参加となり、恒例となっていたリサイクルバザーは、品物が集まらず、止む無く中止に。しかし、お好み焼きと手作りコロッケには沢山のお客さんが集まり、飛ぶように売れてゆき、用意したすべての商品が完売しました。



山西小との交流②



3月9日(水)、山西小学校にて、たんぼぼハウスと6年生の交流会が行われました。6年生から招待を受けたたんぼぼハウスマンバーが小学校に向かうと、図書室に案内され、6年生全員が出迎えてくれました。図書室をみんなで飾り付けをした後、6年生の手作りクレープで軽い食事をしました。その後、4班に分かれて、童謡「ふるさと」を手話で練習し、最後に全員で「ふるさと」を、手話を交えて合唱しました。最初ぎこちなかった仲間たちも、終わるころにはすっかり皆に打ち解けていました。交流会が終わり、たんぼぼに戻って皆が解散したころ、6年生の男児が一人たんぼぼに来て、自分で採って来たというフキノトウを「皆で食べてください」と袋いっぱい持ってきてくれました。子供達の優しさに心が温かくなり幸せな気分になりました。

山西小学校卒業式

3月24日(木)、山西小学校6年生から、たんぼぼハウスマンバーに、卒業式の招待を受けました。突然の招待に、驚きと喜びで急遽、普段着のままでしたが卒業式に出席することになりました。小学校の体育館では、厳粛な雰囲気の中、卒業生のご両親、在校生や来賓の方々卒業生を迎え入れました。山西小学校の6年生とは沢山の思い出があり、招待してくれた喜びと、巣立っていく6年生の姿とで、見ていたら自然に涙が溢れてきました。卒業式が終わって、「今までありがとうございました。中学生になってもたんぼぼハウスに遊びに来ます。」と、わざわざ手紙を届けてくれた小学生もいました。6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。



西原中学校新執行部



3月23日(水)、西原中学校新執行部の皆さんが、たんぼぼハウスを初めて訪れ、作業のお手伝いをしてくれました。西原中学校の執行部の皆さんとは以前より交流があり、たんぼぼハウスが立ち上がった平成17年より毎年交流を重ねてきました。昨年は、人参の収穫作業を手伝ってもらいましたが、今回は、味噌樽を漬け込み所から保冷庫に運んでもらう大仕事をしてもらいました。1樽70kある樽を7樽、離れた場所にある保冷庫まで運び込む仕事を嫌がる顔も見せずに、一生懸命運んでくれました。その後、作業所の製品づくりを仲間と共に作り、交流を深めました。新執行部の皆さん、今年度もたんぼぼハウスをよろしくお願致します。

義援金贈呈式 in 山西小学校



3月29日(火)、山西小学校において、義援金の贈呈式が行われました。3月27日、萌の里で行われたチャリティーバザーの売上金(募金を含む)170,743円を、山西小学校6年生有志17人とたんぽぽハウスメンバーを代表して、今回の企画・取りまとめをしてくれた6年生の鶴田カナナさんから西原村社会福祉協議会の秋吉局長に手渡されました。義援金は、西原村社会福祉協議会を通して日本赤十字に送られ、東北関東大震災の被災された方々に送られます。山西小学校最後の登校となったこの日、将来有望な6年生にとって素晴らしい締めくくりとなりました。



～ たんぽぽな風景 ～ その1



現在たんぽぽハウスには、いろいろな障害を持たれた方や、心に不安を抱えた方、若者からお年寄りまで様々な年齢の方が通っております。日々の昼食は、1食当たり一人100円を昼食代として頂いています。お米やお味噌、少しの野菜は自分たちで作っていますから100円でも十分な昼食が出来ます。食事作りは、当番制で全員が1度は必ず入ります。家ではめったに作らない人も、包丁すら握ったことがない人もお互いに協力し、助け合いながら作ります。美味しかったり、そうでなかったり、ご飯が硬かったり、軟らか過ぎたり、色々ですが、手作りのご飯を皆で食べるこの時間をたんぽぽハウスではとても大切にしています。料理を覚えることも目的の一つですが、何より、みんなと楽しく食事を作り、食べることは、皆にとって幸福な時間でもあるのです。

編集後記

3月11日の東北関東大震災以来、テレビや新聞で毎日のように被災地の様子が報道されています。いまだ絶望の淵から立ち上がれず悲しみの毎日を送られている様子を見るたび、胸が締め付けられるような気になります。そんな中、避難所になっている気仙沼市の気仙沼小学校体育館では、女子小学生の6人グループが毎日、その日にあった楽しい出来事や、明るい出来事だけを「フライト新聞」として避難所に張り出しているというニュースを見ました。被災地に元気が取り戻せるように毎日明るいニュースを探す子供達。それを毎日楽しみに読んで、前向きに生きることを子供たちから学んだと、避難所生活の大人たち。今回の、小学生たちとのチャリティーバザーでも同じような体験をしました。起こる出来事を、ポジティブに捉えるかネガティブに捉えるか、同じ出来事でも捉え方次第で人生が大きく変わるんだと学びました。いつも教わるのは、子供達だったり、障がいのある方達だったり、人生を導く天使は、いつも身近にいるものなんです。

(編集委員 久保田)

ボランティアさん大募集!

たんぽぽハウスでは、ボランティアを大募集しています。棚田でのお米作りや、畑での大豆・落花生作り。無添加のお味噌作りや、たんぽぽオリジナル製品作り、夏祭りバザーなど仲間達と共に働き、共に学び、共に笑い、共に成長していきます。その喜びを共有していただけるボランティアさんを募集しています。年齢性別は問いません。詳しくは、たんぽぽハウスまでご連絡ください。

行事予定	
4月	熊本空港物産市販売 高遊窯ビエントコンサート 木下大サーカス 水煮筍製造 一般作業
5月	水煮筍製造 畑・水田準備 西原保育園児交流会 一般作業 たんぽぽハウス総会
6月	畑作付け 田植え作業 水田除草 梅干作り イチゴ狩り 養護学校実習生受け入れ チャリティー陶芸教室 一般作業